



# ADORES 42nd Business Report

アドアーズ株式会社 第42期株主通信 [2008.04.01~2009.03.31]



## ピンチをチャンスと捉え 「サービス(接客力+提案力)」を強化し 業界No.1オペレーターを目指します

代表取締役社長 中川健男

### 第42期業績について

第42期株主通信をお届けするにあたり、私よりひとことご挨拶申し上げます。

株主の皆様におかれましては、平素より当社事業に対し、格別なるご理解・ご愛顧を賜り御礼申し上げます。

当社の属するアミューズメント施設運営業界におきましては、上期においてはアミューズメント施設への法的規制厳格化や家庭用ゲーム機の伸張、ガソリン価格の高騰および金融不安による軟調傾向が続きました。下期以降につきましては、リーマンショックに起因する未曾有の経済危機が追い討ちをかける形となったことで業界全体の不振が一層顕著に現れました。一般消費者の生活防衛意識は高まり、「巣ごもり消費」と呼ばれる家庭内消費に拍車がかかるなど、非常に厳しい環境が続いております。これにより、中小オペレーターには極めて深刻な打撃を与えただけでなく、大手企業をも巻き込んだ業界全体の構造の変化・再編に向かいつつあるなど、予断を許さない状況となっております。

こうした状況の中で、当社は再編後の業界を見据えた最重要差別化課題として、「サービス(接客力+提案力)」の強化を掲げました。これは基本の徹底、すなわち「当たり前のことを当たり前、高いレベルで行うこと」が不況を打破するカギであるとし、ソフト面の強化に取り組んでおります。

正社員・アルバイトスタッフ問わず、お客様に接する従業員への接客を含めた研修精度の向上や「接客コンテスト」の実施など、サービス業全体でも類を見ない徹底した社員教育を実施することで接客力の強化を図りました。

また提案力の強化につきましては、全店で実施いたしました、「お客様アンケート」に基づき、多様化するニーズや地域特性、満足度の向上を図りました。こうした「お客様視点」を取り入れたことは、既存店舗の競争力強化に留まらず、これまでの概念にとらわれない提案として、カジノゲームラウンジや全年齢層を対象とした3業種複合店舗などの各種新業態の開発にもつながるなど、当社独自の「サービス」へ昇華できるものと確信しております。

また利益構造の改革・収益確保を目指し、マシン投資を見直したほか、効率的な店舗運営を軸とした各種コスト削減に努め、個店ごとの効率性を改善致しましたが、昨年度実績を大きく上回る新店開設が当期間に集中したことによる初期開設費用および償却負担、さらには想定以上の事業環境の悪化により、利益額・利益率ともに前年を下回りました。

この結果、当事業年度における業績は、売上高27,500百万円(前期比+21.0%)、営業利益915百万円(同-52.7%)、経常利益645百万円(同-66.3%)、当期純利益353百万円(同-57.3%)と増収減益となりました。

前事業年度に比べ増収となりました主な要因は、アミューズメント施設運営事業におきまして、通期過去最高となる18カ店の新規出店、および第二の事業の柱である設計・施工事業において前期比3倍に迫る受注獲得の結果によるものです。

その一方で、既存店舗の伸び悩みや、業界再編を見据えたシェア拡大のための積極出店による初年度開設負担が集中したこと、更には設備投資等の資金調達による借入金利負担の増加やM&Aに伴う手数料負担などが、減益の要因であります。

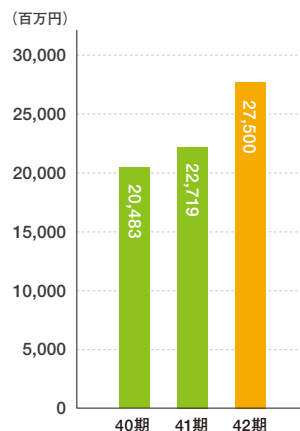
## 次期の見通しについて

次期におきましても、経済環境そのものは依然厳しく推移するものと予想されますが、比較的市场悪化の影響を受けにくい首都圏駅前立地が中心である当社にとっては相対的に追い風にもなりえると考えます。

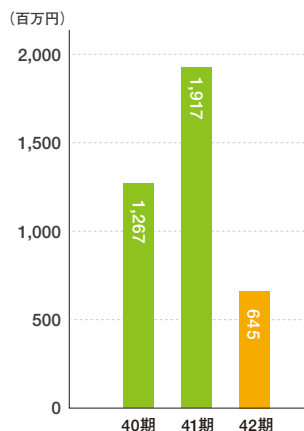
当期はドミナント戦略に基づく店舗網を構築いたしましたが、今後はこうした自社がもつハード面での強みを活かしながら、先に申しあげました通り、「サービス(接客力+提案力)」のソフト面の強化を掲げ、業界不況をチャンスと捉えた積極的なマーケットシェア獲得戦略を全社一丸となって推進してまいります。

また、平成21年5月13日付で当社は株式会社ネクストジャパンホールディングスとの資本・業務提携を実施いたしました。本提携によって、景品関連の仕入れ業務を一本化することで、抜本的なコストの削減を見込んでおります。また、双方の情報を交換・ノウハウの享受を行うことで、アミューズメント施設運営として、多様化する顧客層・価値観に受け入れられる新サービスの開発や、事業基盤の強化も積極的に図ってまいります。

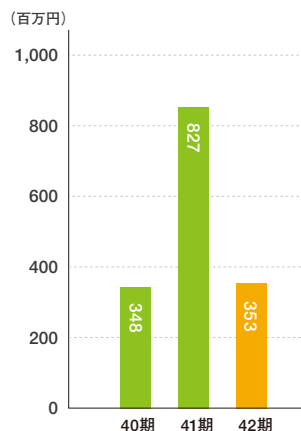
### 売上高



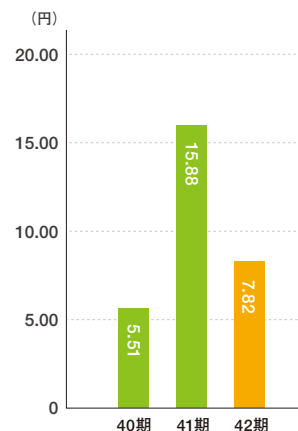
### 経常利益



### 純利益



### 1株当たり純利益



4月

5月

6月

7月

8月

9月



[2008年4月4日]  
アドアーズ蒲田西口店B館 開設



[2008年5月3日]  
アドアーズ上野アメ横店 開設



[2008年4月19日]  
アドアーズ蒲田東口店 開設



[2008年5月9日]  
アドアーズ仙台一番町店 開設



[2008年4月25日]  
アドアーズ大山南口店 開設



[2008年6月1日]  
アドアーズ仙台富谷店 開設



[2008年7月1日]  
めざましテレビ15周年企画  
「めざましテレビクーポン」に参加



[2008年7月12日]  
アドアーズ竹ノ塚店 再オープン



[2008年7月18日]  
アドアーズサンシャイン店  
リニューアルオープン



[2008年8月1日]  
8カ店のアミューズメント施設運営事業を譲受け



[2008年8月5日]  
アドアーズ札幌北42条店横、  
大型ラジコン専門店  
「ラジコン天国札幌北42条店」  
開設



[2008年8月12日～31日]  
アドアーズ40周年イベント  
TV-CM連動企画  
「魔法のジカン」  
全店統一キャンペーン 実施



[2008年9月3日]  
アドアーズー宮店 開設  
[2008年9月4日]  
アドアーズ藤沢北口店 開設  
[2008年9月5日]  
アドアーズ湘南台店 開設



[2008年9月5日]  
アドアーズ三ツ境店 開設  
[2008年9月8日]  
アドアーズ荻窪北口店 開設  
[2008年9月12日]  
アドアーズ川口栄町店 開設

10月

11月

12月

1月

2月

3月



[2008年10月1日]  
アドアーズ上野南口店 開設



[2008年10月1日]  
アドアーズ行徳店 開設



[2008年10月1日]  
アドアーズ調布南口店 開設



[2008年10月8日]  
アドアーズ銀座addict店 開設



[2008年12月16日]  
レトロパチスロ専門ゲームセンター  
"アド★スロ"大山店 開設



[2008年10月9日]  
アドアーズ南砂町SUNAMO店 開設



[2008年10月25日]  
アドアーズ銀座addict店 B2F  
カジノゲームラウンジ "addict" 開設



[2009年1月23日]  
アドアーズミラノ店内に  
メダルゲームマシン専門フロア  
「メダルファンタジア」開設



[2009年2月8日]  
レトロパチスロ専門ゲームセンター  
"アド★スロ"高田馬場店 開設



[2008年12月17日]  
第二回接客コンテンツ開催

## アミューズメント施設運営事業 活動報告

当社の中核事業でありますアミューズメント施設運営事業におきましては、同業・類似業界の不調をチャンスと捉え、将来のマーケットシェア獲得を目的に、当社過去最大となる18カ店の新規出店や様々な新業態を展開するなどの積極的な事業展開を行ってまいりました。

新規出店につきましては「将来のマーケット独占を目指したドミナント型出店」と、同業他社からの引継ぎ・譲受を中心とした「確度の高い売上を上乗せできる拡大型出店」の二つにカテゴリライズし、マーケットシェア獲得戦略の柱として取り組みました。また、獲得したマーケットを活かすための最重要差別化課題として「サービス(接客力+提案力)」の充実を掲げ、基本の徹底こそが不況打破のカギであると、ソフト面の強化にも取り組みました。

「接客力」につきましては正社員・アルバイト社員を問わず、お客様に接する従業員全てに対して接客研修や「全社接客コンテスト」を行うなど、他に類を見ない徹底した社員教育を始めております。一方「提案力」におきましては全店を対象に「お客様アンケート」を実施、結果分析に基づき、多様化するニーズや地域特性、満足度の向上を図りました。その結果、これまでの概念にとらわれない「カジノゲームラウンジaddict」や「KID-O-KID(キドキド)」とのコラボレーションなど、新業態の開発、当社独自のサービスとして展開いたしました。



アドアーズ銀座addict店 B2F カジノゲームラウンジ addict



アドアーズ南砂町SUNAMO店 + KID-O-KID



アドアーズ接客コンテスト

## 設計・施工事業 活動報告

設計・施工事業におきましては、得意とする中・大型ホールの内外装工事案件を計画以上に受注したほか、各種飲食関連や娯楽施設への営業網の拡大に伴い、前年度を大きく上回る実績をあげました。

特にパチンコホール関連の施工につきましては、1円パチンコの人気化など、主力顧客であるパチンコ業界全体で活況の2極化が進んだ結果、勝ち組みとなった大手・中堅企業の設備投資意欲が戻りつつあります。

今後は自社アミューズメント施設の新店開設を控えることを鑑み、昨年以上に積極的な「提案」型営業を推進いたします。自社店舗開設で培った「エンターテインメント性」や「効率的な顧客誘導・導線」などのノウハウを活かした各種飲食施設へのご提案を進めてまいります。



モダン食堂 東京厨房 新宿一丁目店



パチンコホール デルグラント 真岡店



フードアミューズメント施設  
ラーメン博物館(新横浜ラントラクト)



パチンコホール ガイア 秋田横手店



カラオケ U-STYLE 土浦店

■貸借対照表 (単位：百万円) 第42期 (2009年3月31日現在) 第41期 (2008年3月31日現在)

資産の部		
流動資産合計	7,537	7,866
固定資産合計	24,502	21,252
資産合計	32,040	29,118
負債の部		
流動負債	9,369	7,510
固定負債	11,956	10,792
負債合計	21,326	18,303
純資産の部		
株主資本	10,712	10,811
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	5,855	5,855
利益剰余金	2,896	2,994
自己株式	△2,039	△2,038
評価・換算差額等	1	3
純資産合計	10,713	10,815
負債、純資産合計	32,040	29,118

■株主資本等変動計算書 第42期 (2008年4月1日から2009年3月31日まで)

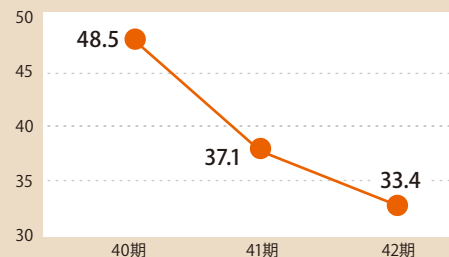
(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2008年3月31日残高	4,000	5,855	2,994	△2,038	10,811	3	10,815
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△451		△451		△451
当期純利益			353		353		353
自己株式の取得				△1	△1		△1
自己株式の消却							
自己株式の処分			0	0	0		0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						△2	△2
事業年度中の変動額合計			△98	0	△99	△2	△102
2009年3月31日残高	4,000	5,855	2,896	△2,039	10,712	1	10,713

財務健全比率

株主資本比率 **33.4%**

当期は将来のマーケットシェア確保に向け、18ヵ店という過去最大のベースで出店を果たしました。これらの投資を借入にてまかなったことにより、有利子負債は前年同期比1,497百万円増の16,150百万円、株主資本比率も3.7ポイント減の33.4%となりました。翌期におきましては構築した店舗網・個店の強化に注力し、新店投資を抑制することで株主資本比率を改善させる見込みです。



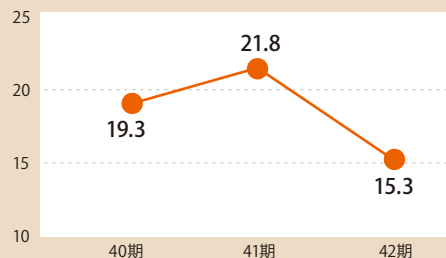
■損益計算書 (単位: 百万円)	第42期	第41期
	(2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	(2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	27,500	22,719
売上原価	23,305	17,757
販売費及び一般管理費	3,279	3,026
営業利益	915	1,935
営業外損益	△269	△17
経常利益	645	1,917
特別利益	308	0
特別損失	364	410
当期純利益	353	827

■キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)	第42期	第41期
	(2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	(2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,589	5,571
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,729	△7,198
財務活動によるキャッシュ・フロー	387	1,131
現金及び現金同等物の増減額	△3,753	△495
現金及び現金同等物の期首残高	5,474	5,969
現金及び現金同等物の期末残高	1,720	5,474

## 収益性

売上高 売上総利益率 **15.3%**

当期におきましては18カ店の開設による開設初期負担が重なったことに加え、既存店舗も軟調傾向であったことから、売上総利益は6.5ポイント減少し15.3%となりました。利益貢献は開設後3年という当社のモデルケースから見ても、翌期における既存店の早期回復は困難ですが、新店の開設負担が発生しない上、コスト削減等の営業努力を強化することで改善する見込みです。



## 効率性

株主資本当期純利益率 **3.3%**

事業環境の悪化の中、将来のマーケットシェアを確保するための新店の集中出店を行ったこと等により、一部資産の特別売却益があったものの、当期純利益は353百万円と減益となりました。当社の経営目標であるROEも前期比3.4ポイント減の3.3%となりましたが、「サービス(接客力+提案力)」の強化を重要課題とし、既存店ならびに開設した店舗網の強化を早期に果たすことで、中長期目標であるROE10%を実現してまいります。



## 会社概要

社名	アドアーズ株式会社(ADORES, Inc.)
創業	1964年2月11日
設立	1967年12月25日
資本金	40億円
社員数	384名、臨時従業員656名
本社事務所	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番3号 TEL.03(5623)1100
事業所	海老名事業所 〒243-0415神奈川県海老名市上河内19 神奈川トナミ運輸倉庫(株)東名支店倉庫内 TEL.(046)237-3451
事業内容	遊戯場施設の運営及び運営サポート アミューズメント施設の企画、開発及び販売 アミューズメント施設のデザイン、施工及び監理 遊戯機器及び遊技機器・部品のレンタル 遊戯機器及び遊技機器・部品の修理及び保守管理業務
ホームページ	<a href="http://www.adores.co.jp/">http://www.adores.co.jp/</a>

## 役員

代表取締役社長	中川 健男
代表取締役専務	八多川 昭一
取締役	石田 政三
取締役	石田 清貴
取締役	小野寺 宏昭
取締役	中野 雅治
取締役	土屋 寛
取締役	野本 文之輔
常勤監査役	栗岡 利明
監査役	板谷 嘉之
監査役	川島 英明

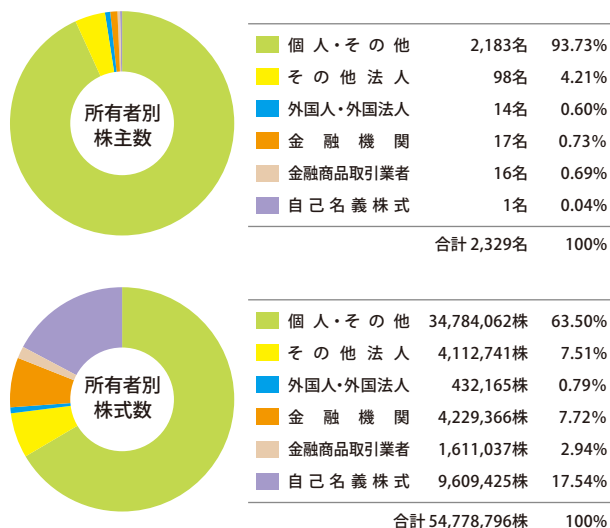
## 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000株
発行済株式の総数	54,778,796株
株主数	2,329名(うち、単元株主数 1,782名)

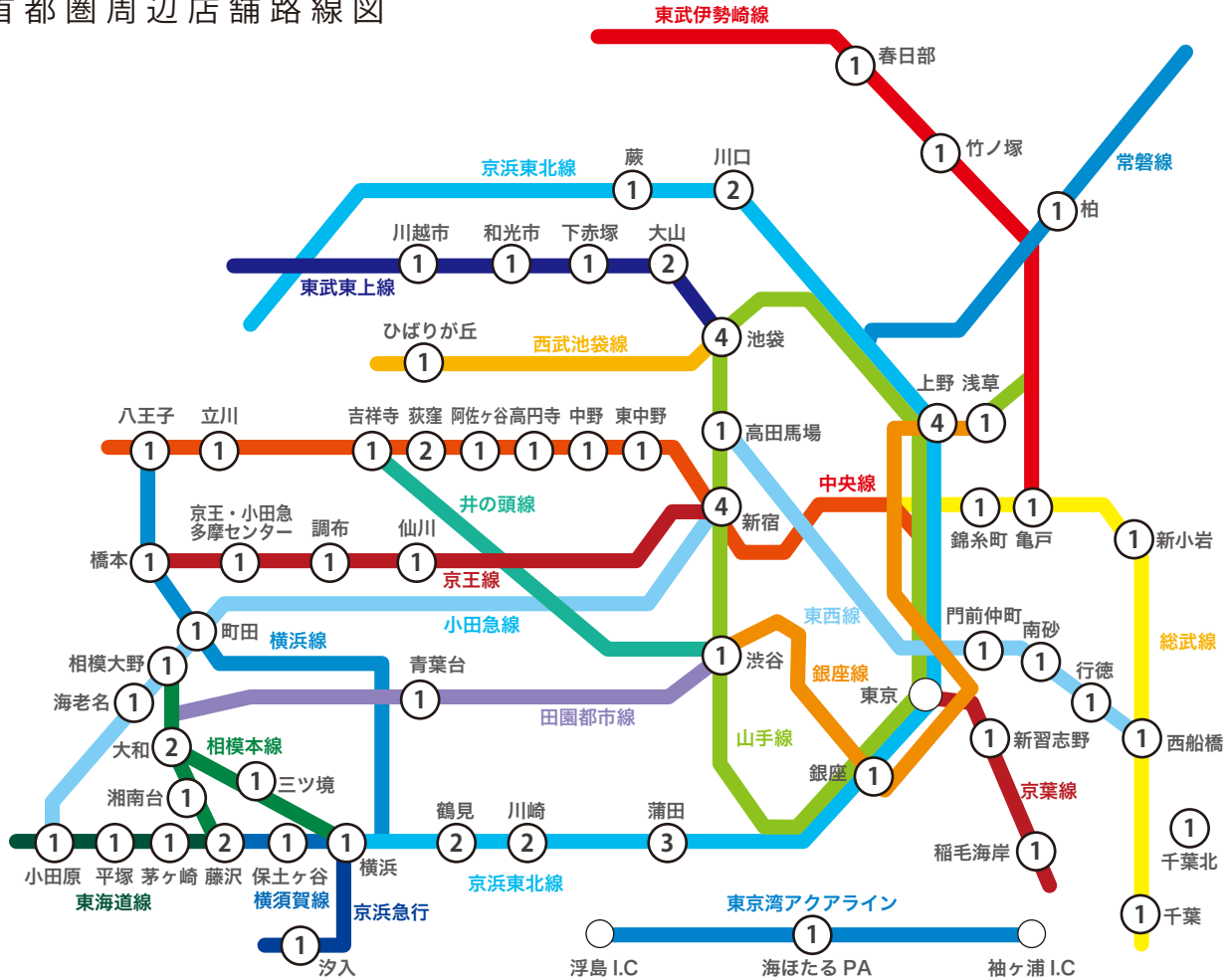
### ●大株主

株主名	当該株主の当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
GF投資ファンド投資事業有限責任組合	20,500,000	45.89
日本証券金融株式会社	3,241,000	7.25
鈴木 昭作	2,046,486	4.58
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	1,710,000	3.82
庄司 正英	1,000,000	2.23
株式会社証券ジャパン	888,000	1.96
星 久	826,924	1.84
株式会社ヤマニ興業	618,000	1.38
岡田 浩明	606,000	1.35
アルゼ株式会社	412,000	0.92

注：上記のほか、当社名義の株式が9,609,425株あります。



首都圏周辺店舗路線図



大阪 ① 東海道線 摂津富田

和歌山 ① 和歌山線 岩出

愛知 ① 東海道本線 尾張一宮

札幌 ① 東豊線 栄町  
① 東豊線・南北線・函館本線・東西線 札幌

仙台 ① 仙山線・東北本線 仙台  
① 東北自動車道・仙台バイパス 泉IC

# 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
公告方法	電子公告により当社ホームページ ( <a href="http://www.adores.co.jp/">http://www.adores.co.jp/</a> )に掲載いたします。ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取・買増のご請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。すでに証券会社等に口座を開設されている株主さまは、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。  
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 【株式に関するお手続きについて】

株券電子化に伴い、株主さまの各種お手続きのお問合せ先は下記のとおりとなっております。

○まだ証券会社等に口座を開設されていない株主さま（特別口座に登録された株式をご所有の株主さま）

お手続き、ご照会等の内容		お問合せ先
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取・買増請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定（*）	特別口座の 口座管理機関	〔手続き書類のご請求方法〕 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufj.jp/daikou/">http://www.tr.mufj.jp/daikou/</a>

(\*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主さまは、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

○すでに証券会社等に口座を開設されている株主さま

お手続き、ご照会等の内容		お問合せ先
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
○単元未満株式の買取・買増請求等、 上記以外のお手続き、ご照会等について	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

## 当社ホームページのご案内

当社ホームページでは、当社の事業内容をはじめ、店舗情報、IRニュースなど、当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。ぜひご覧下さい。



# アドアーズ 株式会社

ホームページ：<http://www.adores.co.jp/>  
本誌に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。  
経営企画室 IR・広報グループ：03-5623-1115